

麦作情報

小麦実肥・防除編

平成22年4月8日
東近江農業農村振興事務所農産普及課

■小麦の出穂期の予測■

今年の出穂期予想は平年より早くなっています。ただし、今後の気象状況により前後することがありますので、各ほ場で必ず確認をお願いします。

表 品種ごとの出穂期と出穂期予想（は種日：11月5日） 農業技術振興センター予測より

品 種	予想出穂期	平年出穂期	平年対比	昨年出穂期
農林61号	4/12～	4月19日	早い	4月13日
ふくさやか	4/10～	4月16日	早い	4月11日

注) 出穂期とは、40～50%の茎から出穂した日です。

小麦は「開花期」に「実肥」と「赤かび病防除」を！

品 種	赤かび防除	実 肥	開花期予想
農林61号	開 花 期		4月22日頃～
ふくさやか			4月20日頃～

開花期予想

出穂後10日頃が開花期の目安ですが、出穂が早い年は花が咲くまでの期間が例年より長引き、開花がバラつきます。ほ場を注意して観察し、開花期を確認してから赤かび病防除と実肥を施用しましょう。

■小麦の実肥施用■

タンパクや容積重などの品質評価基準クリアのための大切な技術です！

(1) 施用時期：出穂10日後（開花期）

(2) 施用量：硫安 15～20kg/10a、または 尿素 10kg/10a

★茎数が多いほ場では施用量を目安どおりとし、少ないほ場(茎数で約320本/m²以下)では、遅れ穂の発生を助長する場合があるため半分程度に減らす。

極端に葉色が濃いほ場や倒伏し始めているほ場でも施用量を減らす。

また、尿素は窒素成分が高く、朝露などで濡れた状態で散布すると葉先等が肥料焼けを起こす原因となるので、水気が引いたのを見計らってから散布する。

■小麦の赤かび病防除■

実肥施用と併せて赤かび病防除を徹底してください。

無人ヘリによる防除の例：トップジンMゾル

散布量：800ml/10a（8倍）

使用時期：小麦は収穫14日前まで（使用回数：出穂期以降は2回以内）

開花がばらついたり、長雨が続く場合などは追加防除が必要となる場合がありますので、関係機関等からの情報にご注意ください。

農薬使用の際はラベルをよく読み、使用時期(収穫前日数)、使用回数、使用量を必ず守って散布してください。

ほ場をぐるっと歩いて、溝の崩れを補修し、排水を良くしよう！